

笑って泣いて、感性を養って

鳥取社会福祉専門学校  
が 田賀 八千代  
た や ちよ  
介 領 域 教 師

鳥取社会福祉専門学校は『介護福祉士』の養成校で、最短の2年間で国家資格の取得がめざせるほか、「レクリエーション・インストラクター」と「大学編入学試験受験資格」も取得することができ、開校21年にわたって県内を中心に多くの福祉人材を送り出しています。

本校のカリキュラムは、「介護」「こころとからだのしくみ」「人間と社会」「医療的ケア」に大別されますが、その中で、介護の現場で30年以上のキャリアを生かして教

# 福祉人材の養成校に聞く

える田賀八千代先生と、介護福祉士をめざして学ぶ2年生の谷口奈穂さん、亀村結起さんにお話をうかがいました。

## 「寄り添うケア」は相手を 知ることから

介護の分野では、「安全・安楽、自立支援、尊厳」を大切に、個々に「寄り添うケア」を、めざしています。「寄り添うケア」とは、単にそばにいてあげただけでなく、相手の気持ちや思いに寄り添うということです。相手の気持ちを知ることとする気持ちが大切です」と、田賀先生は話します。

特に、食事・入浴・排泄の介護は、一対一で関わりをもつ介護です。そのケアの中で、どれだけ利用者に向き合い、利用者の言葉を引き出すかということです。この貴重な時間が、絶好のコミュニケーションのチャンス、といえます。「寄り添うケア」とは、「利用者の心身の状況に合わせた高いコミュニケーション技術が必要になります」と、田賀先生は指導しています。

就職先が内定している谷口奈穂さんは、いったん理学療法士をめざしていましたが、もっと日常生活から利用者を支援できる職

種につまだしい思いをおして入学しました。



谷口奈穂さん

谷口さんは、高校生の頃、高齢者福祉施設は、利用者の一日の生活を介護職員だけでこなしている、もつと感じていましたが、それは学んでいく中で拭い去られました。そして、「介護福祉士は、高齢者や障がい者の生き方や生活全体にかかわって利用者の暮らしを支え、できることは自分でしてもらおうなど、自立に向けた介護に家族とともに取り組み、支援をするチームケアの一員だということ」を認識できた」と話します。

## 理解力を高めて、人の気持ちができる人

実社会で働いていた亀村結起さんは、自分が手がけた製品の成り行きがわからず、手応えが感じられなかったことから福祉現場をめざしました。本学で学びながら、

通信教育で「社会福祉士」の国家試験受験資格も取得するべく、ダブルスクールで学び、就職先も内定しています。

亀村さんは、「どんな仕事も人の役に立っていますが、人の役に立っているという実感が欲しかった」と打ち明け、「介護の仕事はコミュニケーションであり、反応がすぐに返ってきます。大変なのはこの分野だけではなく、むしろ支援する中で、利用者により変化が見られることは大きな喜びになります」と、実習で体験した、利用者の意欲で可能性が開けたケースを胸に刻んで、介護にあたるつもりです。



亀村結起さん

そんな学生たちに田賀先生は、「理解力を高めるために幅広い知識と経験を重ね、利用者の気持ちができる、感性豊かな人になって欲しい。笑って泣いて、失敗を恐れず、いろいろな経験をしてください」と生徒たちに話しています。